

提出日：平成 28 年 5 月 2 日

平成 27 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業

(2) 研究成果の概要

課題名	がん転移において遠隔臓器特異的に発現するタンパク質の解析		
研究代表者	氏名	富田 毅	
	所属機関名・部局名	東京女子医科大学・医学部	
	職名	助教	
事業名 (該当の事業名の右欄に○)	<input type="radio"/>	共同研究員	
	<input type="radio"/>	国際共同研究課題	
	<input type="radio"/>	超高磁場NMR 共同利用研究課題	
	<input type="radio"/>	客員フェロー	
蛋白研受入担当教員名	高尾 敏文		
<p>本年度は、3つのプロジェクトにおいて進展が見られた。セラストラマイシン結合タンパク質(mTOC)の結合タンパク質の解析では、mTOC タンパク質をリガンドとした共免疫沈降およびプルダウンアッセイを行った。回収されたタンパク質は電気泳動・CBB 染色により分析後、バンドを切り出し、プロテアーゼを用いてゲル内消化を行い、質量分析によりペプチドフラグメントの配列解析を行った。得られたアミノ酸配列情報から目的タンパク質の同定を行った。同定できたタンパク質については、mTOC 結合の特異性と実験の再現性の確認を行っている。</p> <p>可溶性 EphrinA1 が生成する分子機構を明らかにするための研究では、大腸菌で発現・精製した EphrinA1 を用いて可溶性 EphrinA1 を再構成させる実験を行った。質量分析による解析から、可溶性 EphrinA1 の生成機構について明らかにすることができた。</p> <p>転移前土壌形成に関わる新規タンパク質の研究では、腫瘍細胞を移植したマウスの転移前フェーズにおける臓器等からタンパク質を得た後、正常マウスと比較して、転移前フェーズにおいてタンパク質レベルで変化する分子について、質量分析の手法で同定を行った。得られた結果については現在解析中である。</p>			

※本様式は、“拠点事業成果報告”として、拠点ホームページにて公開させていただく予定です。

※必ず A4 用紙 1 枚におさめて下さい。 ※提出期限：平成 28 年 5 月 20 日（金） ※提出の際は PDF 変換して下さい。

※提出先：大阪大学蛋白質研究所拠点プロジェクト班 E-mail: tanpakuken-kyoten@office.osaka-u.ac.jp